

2026 年 8 月 3 日
日本船主協会 海務部

海賊対処行動水上部隊が無事任務を終え帰港

～ 第 53 次派遣海賊対処行動水上部隊帰国式典の様相 ～

第 53 次派遣海賊対処行動水上部隊が、ソマリア沖・アデン湾に向け 2026 年 1 月 28 日に日本を発って以来、約 6 か月ぶりとなる 2026 年 8 月 1 日に海上自衛隊大湊基地（青森県むつ市）に帰港した。

同隊の構成は堤敏雄 艦長以下、約 200 名（その他、久木田修身 隊長以下海上保安官 8 名を含む）。護衛艦「ゆうだち」にて、ソマリア沖・アデン湾周辺海域における商船の安全航行に向けたゾーンディフェンス活動、中東地域における日本関係船舶の安全確保に必要な情報収集活動に従事し、任務を事故なく無事遂行した。

式典では、堤艦長が任務を完遂し総員帰還した旨を報告。その後、統合作戦司令官、自衛艦隊司令官からの訓示が述べられた。

まず、統合作戦司令部 高石景太郎 幕僚長が、「本任務においては、日本関係船舶をはじめとする海上交通の安全確保に加え、日印尼共同訓練やインド海軍主催の国際観艦式/多国間共同訓練への参加など、国際秩序の維持に大きく貢献した。任務完遂に最大限の敬意を表する」旨の、俵干城 統合作戦司令官の訓辞を代読した。

続いて、大町克士 自衛艦隊司令官より、「派遣期間中、日本関係船舶がペルシャ湾内に留め置かれる緊迫した状況下での情報収集活動や、ソマリア沖、アデン湾内にて増加する海賊への対応による船舶の安全確保への貢献など、大きな成果を残しており、努力に最大限の敬意を表するとともに、今回の経験を糧として今後の職務へ邁進してほしい」旨、訓示が述べられた。

その後、彼末浩明 海上保安監より、「高い緊張状態にある厳しい環境下での任務完遂は、海上自衛官と海上保安官の緊密な連携の賜物であり、最大限の敬意を表するとともに、更なる連携の発展に期待する」との挨拶があった。

本帰国行事には、来賓としてイブラヒム・ビレ・ドゥアレ 駐日ジブチ大使が出席し、当協会からは長澤会長の代理として出席した川崎汽船株式会社 遠藤英明 執行役員より、「日本商船隊の安全確保に向けたご尽力、誠にありがとうございました！」と、半年以上の長期に及ぶ尽力へ謝意を伝えた。

当協会からは平尾真二 常務理事をはじめ、飯野海運株式会社 落岩和彦 海務部長、NS ユナイテッド海運株式会社 谷口龍介 安全管理グループ 海務チームマネージャー、株式会社商船三井 米田輝希 海務・海技群 海務ユニット長、日本郵船株式会社 増富聡 司 海務グループ グループ長代理が出席。その他、国際船員労務協会からは綾清隆 会長らが、全日本海員組合からは大山浩邦 国際局外航部 部長らがそれぞれ出席した。

(海務部)

行事当日の様子



訓辞を代読する高石幕僚長



訓示する大町自衛艦隊司令官



挨拶する彼末海上保安監



任務を終えた乗員



謝意を伝える遠藤執行役員



出席した海運関係者